



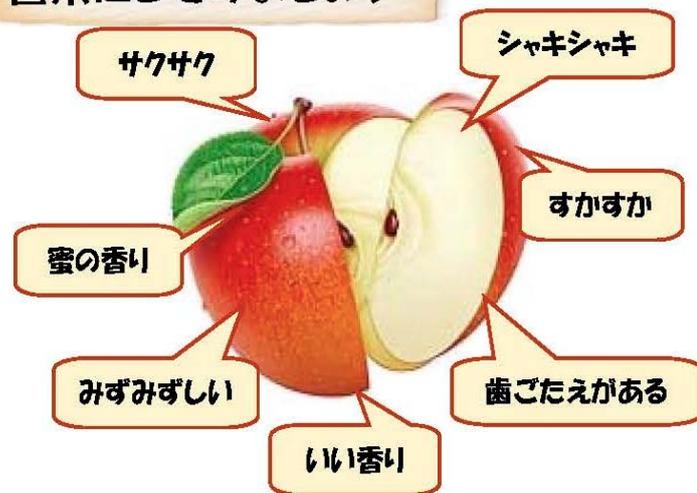
日常生活で鍛える発想力や語彙力

発想力や語彙力を付けることが大切であることは皆さん分かっています。子ども達は、知らないことがたくさんありますが、今までの経験でいろいろな表現や発想をします。日常の中のちょっとした大人の声かけで、子ども達の能力は大きく成長します。

親子の会話で語彙力のアップ

国語力の土台である「語彙力」は、日常会話でも育むことができます。子どもは実際に見たり経験したものに興味を持ちます。日常生活のなかでお子さんが関心を持ちそうなものがあった時に、お子さんに話しかける際に、比喻表現などを盛り込んでみてはどうでしょう。単に「おいしい」だけでなく、五感で感じたことを一言付け加えて表現してみましょう。

「味」を 言葉にしてみましょう



りんごを一つあげても、「食感」をいろいろと表現できます。同じりんごでも、食べる人によって表現が違います。この経験が語彙力と共に表現力・想像力の向上につながります。

発想力 作業を伴った協力から生まれる

3年生が図工の時間に、新聞を使って「秘密基地を作ろう」を行っていました。子ども達は、新聞紙で囲いを作ったり、パーテーションを工夫したり、入口を飾ったりしていました。参観していると、子ども達の素晴らしい声を聞くことができました。「入口を丸くしよう」「中がちょっと狭いな」「部屋があると良いな」など、それだけでなく「そうだねー」の協調の言葉もでていました。



小学校時代の発想は、先入観もなく、大人が思いつかないような素晴らしいものがあります。今週一年生が、国語の時間に本の写真の紹介文を作っていました。ナマズの写真を見て、大きな口で魚を吸い込むとか、ダンゴムシは赤ちゃんを抱えているとか、実際に見たことなくても自分の経験を頼りに素晴らしい発想をしていました。「夕焼け」＝「きれい」、「ダンゴムシ」＝「汚いから触らない」など、子どもの自由な発想を妨げる大人の先入観を押しつけないことが大切です。小学校の時期は、夢や発想が豊かです。それが、文章力に繋がったり、将来の夢に繋がったりします。

